

⑫ 公開実用新案公報 (U) 平3-112468

⑬Int.Cl.⁵
B 62 D 1/18識別記号 庁内整理番号
6573-3D

⑭公開 平成3年(1991)11月18日

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全4頁)

⑮考案の名称 チルト式ステアリング装置

⑯実 願 平2-21431

⑰出 願 平2(1990)3月5日

⑱考案者 東野 清明 群馬県群馬郡群馬町引間433-2
⑲出願人 日本精工株式会社 東京都品川区大崎1丁目6番3号
⑳代理人 弁理士 小山 鈍造 外1名

㉑実用新案登録請求の範囲

(1) 車体に固定される支持ブラケットと、第一の横軸により一端をこの支持ブラケットに枢支されたステアリングコラムと、片側面に第一の係合歯を形成して成り、前記ステアリングコラムの下面に固定された第一の係合部材と、一端を前記支持ブラケットに設けた第二の横軸に枢支し、他端部片側面に、前記第一の係合歯と係脱自在な第二の係合歯を形成した第二の係合部材と、前記支持ブラケットに固定の部分と前記第二の係合部材との間に設け、この第二の係合部材を、前記第一の係合歯と第二の係合歯との係合を外す方向に押圧するばねと、前記支持ブラケットに搖動自在に枢支されたチルトレバーと、このチルトレバーの搖動に伴なつて前記第二の係合部材の他端部他側面と係脱し、係合時に前記第二の係合部材を前記ばねの弾力に抗し押圧して、前記第一の係合歯と第二の係合歯とを係合させる押圧板とから成るチルト式ステアリング装置。

(2) 支持ブラケットの下面に、互いに平行な第一、第二の支持壁を有する枢支ブラケットを固定すると共に、前記第一、第二の支持壁に掛け渡した状態で第二の横軸を設け、前記第一の支持壁と第二の係合部材の一端部片面との間に圧縮ばねを設けた、請求項1に記載のチルト式ステアリング装置。

(3) 第二の支持壁を第一の支持壁よりも、第二の係合部材の他端側に迄延長して延長部と共に、チルトレバーの搖動に伴なつて押圧板

が、前記第二の係合部材の他端部他側面と前記延長部との間に進入自在とした、請求項2に記載のチルト式ステアリング装置。

図面の簡単な説明

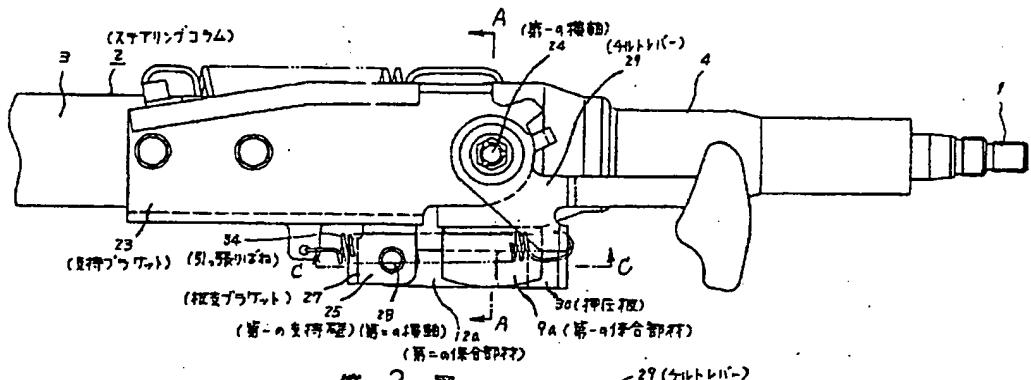
第1～8図は本考案のチルト式ステアリング装置の実施例を示しており、第1図はステアリングコラムを固定した状態を示す側面図、第2図は第1図の下方から見た図、第3図は第1図のA-A断面図、第4図は第3図のB矢視図、第5図は第一、第二の係合歯同士を係合させた状態を示す第1図のC-C断面図、第6図はステアリングコラムの高さ調節を行なう際の状態を示す側面図、第7図は第一、第二の係合歯同士の係合を外した状態を示す第6図のD-D断面図、第8図は押圧板の係合部の形状の別例を示す、第7図のE部に相当する図、第9～12図は従来のチルト式ステアリング装置の第1例を示しており、第9図は全体構成を示す側面図、第10図は第9図のH部を拡大して示す部分縦断側面図、第11図は第10図のF-F断面図、第12図は第10図のG矢視図である。

1……ステアリングシャフト、2……ステアリングコラム、3……下部ステアリングコラム、4……上部ステアリングコラム、5……支持ブラケット、6……横軸、7……チルトレバー、8……ダッシュボード、9, 9a……第一の係合部材、10, 10a……第一の係合歯、11……横軸、12, 12a……第二の係合部材、13, 13a……第二の係合歯、14……軸、15……ローラ、16……搖動板、17……傾斜長孔、18,

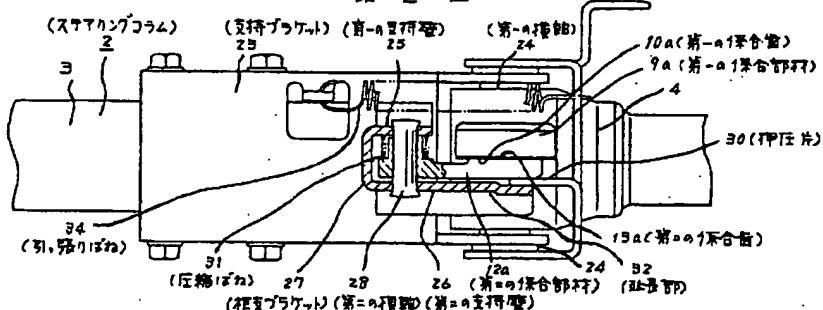
19.....ピン、20.....円弧状長孔、21.....引つ張りばね、22.....吊り下げ腕、23.....支持ブラケット、24.....第一の横軸、25.....第一の支持壁、26.....第二の支持壁、27.....枢支

ブレケット、28.....第二の横軸、29.....チルトレバー、30.....押圧板、31.....圧縮ばね、32.....延長部、33.....面取り部、34.....引つ張りばね。

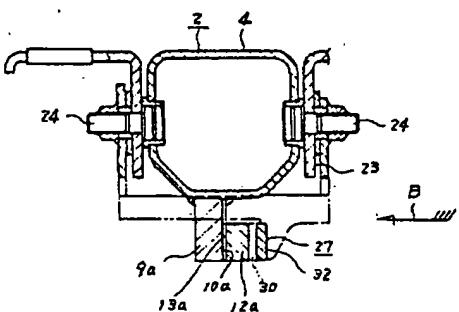
第1図



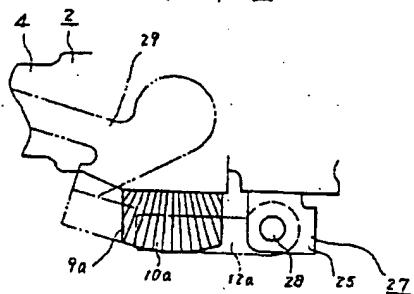
第2図



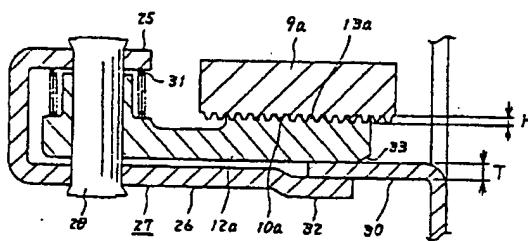
第3図



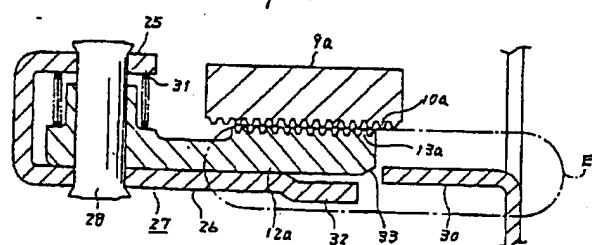
第4図



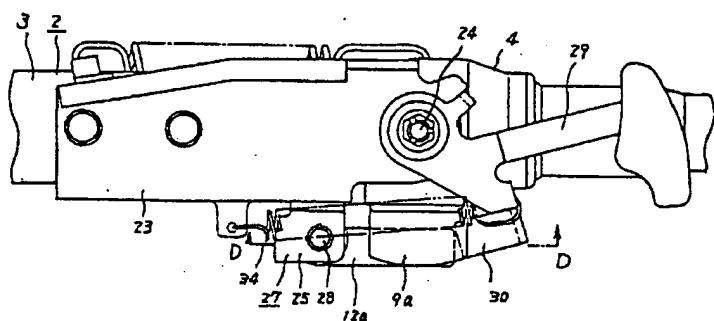
第5図



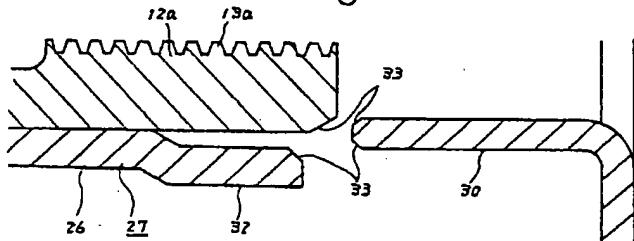
第7図



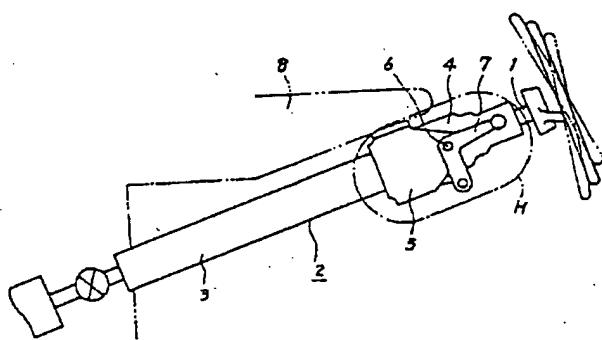
第6図



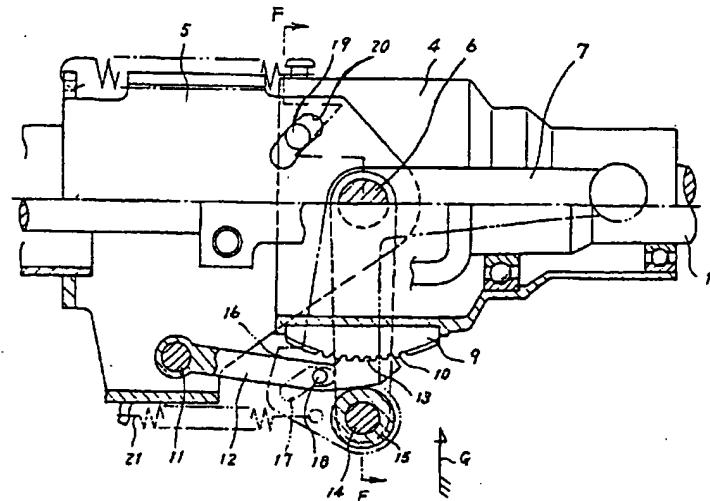
第8図



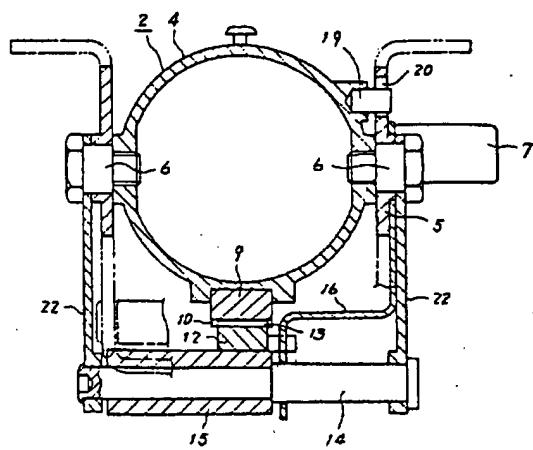
第9図



第10図



第11図



第12図

